

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	砂川市子ども通園センター		
○保護者評価実施期間	令和8年1月22日		～ 令和8年2月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	71人	(回答者数) 50人
○従業者評価実施期間	令和8年1月22日		～ 令和8年2月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数) 10人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもひとり一人の特性や状況に応じた個別療育を基本とした支援体制を構築している。	お子さんの成長や発達に合わせて1対1で指導を行う個別療育を基本とした支援体制であり、保護者の要望やお子さんの興味関心のあることを織り交ぜながら、療育の内容については、その日のお子さんの様子によって支援内容・課題・教材を工夫して柔軟に対応しています。	年に数回心理士や作業療法士、言語聴覚士を招いて専門的な評価のもと、お子さんや保護者に助言を行っており、職員も指導方法等について学び、支援の質の向上に努めている。
2	保護者とのコミュニケーションをする機会の充実を図っている。	保護者が療育中に同席しており、日常の様子や相談事について常時指導員とコミュニケーションを図っています。	指導員が、当センターと併行して通園している保育園等の訪問した際には、お子さんのその時の様子を伝えたり、病院に受診する際には受診同行をしたり、親の会を通して保護者同士が交流する機会を設けるなどしています。
3	ICTシステムの活用による情報伝達の推進を図っている。	ICTシステムの導入により、アプリを通して療育に関することや行事や活動のお知らせを発信し、いつでも閲覧することができるようになり、さらに双方から連絡のやり取りがいつでも可能になっています。	アプリの操作方法を説明をするなど有効に活用していただけるよう努めています。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所では、感染対策マニュアル、ヒヤリハット報告事業、虐待防止対応規定、防災計画などが策定され、発生を想定した訓練の実施や各種研修を受講しています。	お子さんが事故やけがにより病院を受診するという事象は発生していませんが、保護者にも緊急時の対応について周知する機会を設けたり訓練の協力を求めています。	定期的にマニュアルの見直しや改定を継続するとともにお子さんと保護者に一緒に訓練に参加ができるような機会を設けたり、子どもの安全を守る取り組みについて、保護者が共有できるような発信をしていきたい。